

長崎県技術士会顧問 岡林隆敏先生を偲ぶ 長崎県技術士会 会長 山口 和登

長崎大学名誉教授・長崎県技術士会顧問 岡林隆敏先生は令和5年5月16日にご逝去、享年76歳でした。岡林先生のご功績等の詳細は川村副会長が詳しく述べられていますので、ここでは、長崎県技術士会との関係を主に述べさせていただきます。

岡林先生には平成25年から正式に長崎県技術士会の顧問に就任していただきました。長崎県技術士会は技術士資格を持つ、県内の技術者個人が会員の集団で、安価な個人会費で運営されていて財政的にも厳しかった関係で顧問料は「無し」という条件にもかかわらず、2ヶ月ごとに開催される役員会には毎回出席していただき、貴重な意見や助言を頂きました。また、長崎県技術士会と長崎大学との橋渡しに多くのご助力を頂き、今の良好な関係の基礎を築いていただきました。本当にありがとうございました。

私が一番印象に残っているのは、平成27年2月に開催した岡林先生の発案で佐世保の針尾の無線塔（針尾無線送信所跡）の見学会です。その当時はこの施設跡は今ほどに注目されてなく、そのために周辺整備がされていませんでした。この為、岡林先生のご尽力により、佐世保市と協議し、かなり自由に見学や調査が出来ました。また現地での岡林先生や佐世保市教育委員会の学芸員の説明は大変勉強になりました。この時の詳細は長崎県技術士会機関紙「APREN」49号（平成27年4月号）に岡林先生自身が見学会報告を寄稿し

ておられます。機関紙は長崎県技術士会のホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

後日談ですが、その見学会に長崎県建設技術研究センター（ナーク）所属の小川健さんが参加されており、その時の感動から無線塔の建設当時の技術、材料等について詳しく調べ始められました。小川さんは大手ゼネコン出身の方で、私は彼がゼネコン時代からの知り合いで、ナークに再就職されていました。そのような関係から、小川さんは岡林先生から多くの教えを頂いて論文を書き始められました。私も陰ながらお手伝いをしましたが、専門外のため論文の字句チェック程度でしたが、岡林先生は厳しく親身に指導されていました。そして、先生は土木学会誌への投稿を勧められ、小川さんは2～3年かけて論文を完成させ、土木学会誌に投稿され掲載されました。その後、小川さんの研究は続きましたが、岡林先生は病に倒れられ、研究の指導は同じ長崎大学の松田浩教授に引き継がれました。松田先生は博士論文としてのまとめを勧められ、その後、長崎大学の博士論文として承認されました。なお、小川さんも博士論文が承認される3日前に病気のため亡くなりました。

岡林先生には、長崎県内の石橋や古いダム等の歴史的建造物の見学、講演会等につき合わせさせられましたが大変勉強となりました。これらの詳細は長崎県技術士会の園田理事の追想文に述べられていますのでここでは省略いたします。また岡林先生は多くは語られませんが、現在でも放送されている「ブラタモリ」の記念すべき第1回目の

「長崎」の放送にも関係されていたようです。

岡林先生は多方面での指導やご活躍され、個人的にも大変お世話になりました。ありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(了)

岡林隆敏先生の思い出 (追想)

長崎県技術士会 理事 園田直志
長崎大学工学部 1973 年 (昭和 48 年卒業)

岡林先生は、長崎大学に昭和 46 年に着任した。当時私は、土木工学科の 3 年生であり、直接の講義は受けていない。卒業後長崎を離れ、ゼネコンに就職し S 49 年のオイルショック後のバブル経済等を経験し、定年後の 2012 年 (H 24 年) に 40 年振りに長崎に帰省した。

帰省後の長崎や長崎大学の雰囲気馴染めない中、縁があつて長崎県技術士会に入会し、当会の顧問として就任した岡林先生と親しく交流する機会が多くなった。この折に、現在の長崎大学との交流および JABEE に関して多くのご指導やご尽力を頂きお世話になりました。

私の 10 年間の交流と岡林先生の長崎に着任してから 52 年間の橋梁に関する研究と長崎文化史研究における功績とリンクしながら追想します。

この原稿が発行される頃には終了していますが、NHK 朝のドラマ「植物学者—牧野富太郎博士 (ドラマでは槇野万太郎)」を題材にした番組を視聴されたでしょうか。高知県佐川町は偉大な方を輩出しています。ドラマの牧野富太郎博士や私の尊敬する「神様になった土木技術者台湾の八田與一」の先生である広井勇博士 (ドラマでは広瀬裕一郎) が居られます。

現在の土木学会初代会長 (日本工学会会長) の

古市公威から続く広井先生の教え子に青山士 (アキラ)、宮本武之輔、八田與一など多くの有名な土木技術者が生まれ、日本の近代工学を築いた偉人たちとして現在の (公益社団法人) 土木学会で語られています。佐川町では、牧野博士の話題に留まらず、広井勇先生の銅像も最近建立されたことも聞きました。



写真-1: (近代土木の礎を築いた清きエンジニア-広井勇銅像): 佐川町西森徹氏提供 2023.8

他に、土木技術者の銅像としては東京大学の古市公威銅像や台湾南部の烏山頭ダム湖畔の八田與一銅像が知られています。

岡林先生とは 2 ヶ月毎の長崎県技術士会の懇親会の後にコーヒー喫茶で語らいながら、ご出身が、高知県佐川町であるにも関わらず、下戸である事や筆者が 42 歳頃にその隣の越知町でトンネル現場の現場代理人であった事、当時の佐川町出身の技術者と現在も LINE 友達である事など佐川町の時事話題を伝えていました。

岡林先生の中学校時代、高知県で有名な酒造蔵「司牡丹」の塀そばを通学中に酒の匂いでフラフラした思い出を語ってくれた事を思い出し、30 年来の佐川町の友人に伝えたところ、当時の通学路の地図も調査して頂きました。逆に、岡林先生の長崎大学の功績などを伝えたところ佐川町やご親戚の方々も大変喜んで居られる事も御家族の方に伝えて欲しい事でした。

高知と長崎は、坂本龍馬や三菱の岩崎弥太郎ほか何かと縁があるので、岡林先生もその縁を感じながら専門の橋梁技術研究と並行して、長崎の土木史を研究されたのではないかと個人的に思います。

以下に、長崎県技術士会の顧問としても多くの長崎県の土木史跡や橋梁ツアーを主催した思い出写真や過去に会報誌「APREN」の資料を掲載しながら岡林先生を追悼します。



写真-2：長崎市橋梁ツアー：2019.1.19



写真-3：日本技術士会長崎県支部研修会にて2019.6.8
過去の広報誌「APREN」における岡林先生の
執筆記事

・H27年4月10日

APREN 49号 針尾無線送信所（無線塔）跡
の見学会

・H27年10月10日

APREN 51号 「モダン長崎展」の紹介 —
地図と絵葉書で見る長崎市の変遷—

・H28年4月10日

APREN 53号 近代化遺産（近代・ダム）めぐり-現場見学会（支部広報委員 山口昭光）

・H29年4月10日

APREN 57号 「石橋の歴史からみる諫早眼鏡橋—日本を代表する美しい石橋—」の講演会の紹介（1）九州の石橋の分布と特徴の紹介

・H9年7月10日

APREN 58号 「石橋の歴史からみる諫早眼鏡橋—日本を代表する美しい石橋—」の講演会の紹介（2）諫早眼鏡橋の重要文化財としての評価

上記の記事は、長崎県技術士会のホームページから閲覧出来ます。

最後に、岡林先生の遺作著書「長崎橋物語—石橋から戦災復興橋まで」（弦書房-本体2000円-編集協力-中村聖三-長崎大学大学院工学研究科教授）を紹介します（Amazonで購入可）。これからも長崎の土木史が研修できます。



写真-4：長崎橋物語

長い間、ありがとうございました。心からご冥福をお祈りいたします。

（了）

岡林隆敏先生を偲んで

長崎県技術士会 副会長 川村 昭宣

長崎県技術士会の顧問として、長い間ご指導下さった岡林隆敏先生が今年5月16日、76歳にてご逝去されました。心からお悔やみ申し上げます。

私は岡林先生とは昭和62年頃からお付き合いがあり、先生を偲びつつ、今までの思い出等を述べさせていただきます。

岡林先生は昭和22年に高知県でお生まれになり、昭和46年から長崎大学に奉職されて、平成10年に長崎大学の教授に就任されておられます。

先生は橋梁工学、振動工学、近代土木史、景観工学、土木情報学、維持管理工学等の幅広い分野で研究を行われてきました。長崎県内には近代化を象徴する土木遺産が多く所在しており、これらの文化財保護に関して、先生の識見が果たした功績は大きく、多くの関連する委員を務められました。

長崎県技術士会との関係ですが、2013年平成25年から長崎県技術士会の顧問に就任いただき、総会やCPD研修会で何回も講演していただきました。更に2カ月に1回開催の役員会にも毎回出席して下さり、多くの御助言やご指導をしてくださいました。本当に深く感謝しております。

先生は、戦後建設された多くの社会基盤設備の維持管理の必要性を早くから提唱されて居られ、長崎県技術士会が後援しております産業基盤維持管理技術研究会を、20年以上前に発足させ初代会長として、皆をご指導くださいました。

対象物として、橋梁やトンネル・港湾設備等の土木構造物は勿論、発電所や各種工場設備等幅広い分野の維持管理を進めるべきと考えられ、研究会の名称を「産業基盤維持管理技術研究会」と名付ける事にされました。

私は先生からの御指名で副会長を務めさせていただいておりますが、先生の知見、幅広い人脈を生かして、東京や大阪等から、維持管理に詳しい先生方を毎回講師として招き、維持管理に関する

最新技術開発の状況報告をしていただき、岡林先生の鋭い質問で講演内容のポイントが明確化され、参加者全員に深い感銘を残していただきました。

産業基盤維持管理研究会は、岡林先生が定年退職された後は、中村聖三教授が会長となって、現在も継続開催されております。

私は土木工学科出身ではなく、船舶工学科の大学院を卒業して昭和42年に三菱重工業株式会社に入社し、希望通り長崎造船所に配属され、約20年間船体構造設計を担当してきました。しかし昭和62年に、橋梁・鉄構造物・海洋構造物や新製品等船舶以外の設計担当課に異動となり、船を離れて土木の分野の仕事をする事になって、その頃から橋梁の設計、特に橋梁の振動問題で、先生とのお付き合いが始まりました。以来35年以上の長期にわたり、色々な面でご指導いただきました。

船の構造設計をする場合、強度検討とともに、完成後の船の振動を減らすための検討が重要であり、船体各部の固有振動数を推定し、プロペラや主機関等から発生する起振力による振動応答を推定し、対策を行ってきました。船舶の完成後には試運転を行って船速や燃費等各種機能の確認をしますが、その時各種振動機器を配置して振動計測も実施して、振動騒音が少なく快適である事を確認します。

また船舶完成の前、船体構造の完成時期には、居住区等の固有振動数確認のため、船体後部に大型の起振器を設置して、船体各部の振動計測実験を行ってきましたが、より簡便な方法として衝撃加振器を使用する方法が使われる様になりました。

この方法を橋梁にも応用し、完成した橋梁の固

有振動数の推定や、経年劣化した橋梁の健全度推定の一つの方法として、衝撃加振器により、固有振動数の変化を調べる研究を行いました。

この間、岡林先生に色々ご指導いただき、土木学会や海外のセミナー、雑誌等に下記論文等を発表致しました。

・構造工学論文集 Vol. 34A、1988 年、「道路橋振動特性測定における衝撃加振法の適用」

・橋梁と基礎 1988 年 Vol.22 「衝撃加振法による道路橋の振動計測」

・ベルギーでの 1990 年セミナー 15th International Seminar on Metal Analysis and Structural Dynamics 「Impulse Test Method to the Vibration Measurement of

Bridge」

・土木学会 構造・材料論文集第 10 号 1994 年 「アーチ橋における補修前後の振動特性の変化について」

これらの論文を通じて、衝撃加振法によれば、短時間で容易に橋梁の振動特性を高次モードまで求めることが出来る事を示しました。

先生は各方面でご活躍され、多くの著書も発行されて居られ、その功績は顕著であり、2022 年文化庁の地域文化功労者表彰も受賞されました。

先生のご活躍を偲びつつ、今までの数多くの御指導に感謝し、心からご冥福をお祈りいたします。

(了)

※ 機関紙発行担当からのお知らせ

(1) 会員の訃報-謹んでご冥福をお祈りいたします。(敬称略)

中村 昇(農業) 2023/5/16(79歳)

清水富夫(機械) 2023/8/26(81歳) 理事・名誉会員

(2) 新入会員の紹介(4、6、8月役員会承認)

(区分)	(氏名)	(部門)	(所属)
A会員	浦瀬 俊郎	建設	東亜建設技術株
A会員	川口 季昭	電気電子	協和機電工業株
A会員	福田 洋平	機械	長崎県工業技術センター
A会員	田中 健吾	機械	三菱重工業株
A会員	森崎 雅俊	建設	株大島造船所
A会員	松尾 哲也	機械	三菱重工マリンマシナリ株
A会員	木村 幸治	環境・建設	長崎県県民生活環境部
A会員	佐藤 くらら	環境	株オリエントアイエヌジー

(3) 次回 令和5年度第3回研修会

令和5年度の第3回研修会は、令和5年11月1日(水)に「諫早商工会議所」で予定しています。申込は日本技術士会長崎県支部事務局折田(E-mail: s.orita@zb4.so-net.ne.jp TEL: 095-824-3620)までお願いします。多くの皆様の参加をよろしくお願いいたします。

編集代表&連絡先

N. ソノダ技術士事務所 代表 園田直志

sonoda_naoshi@icloud.com